

2022/11/27

メッセージタイトル： 「真の幸いをあなたに」

厳しい疫病が、日本に、そして世界の国々にここしばらく流行し、多くの尊い人命が失われ続けています。この3年以上に及ぶ人類の疫病との戦いにいつ終止符が打たれるのでしょうか。このような中、誰も心探られることがあるのではないのでしょうか。「自分は、人生を悔いのないものとして日々有意義に生きて来ているのだろうか？」という自問です。

今日の聖書の箇所は、イエス・キリストの「山頂の垂訓」と言われる長い説教の出だし部分であり、人間の生き方を鋭く、また、優しく解説してくれています。この部分は、イエス・キリストの宣教の中核宣言である「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」（4：17）と重ね合わせて理解することが求められます。人は、誰であっても創造者なる神の御心に沿った歩みを送らない限り、本当の幸い、幸福を味わうことがない、というメッセージが込められています。

今日の箇所は、「人間の本当の幸福とは？」、「その幸福をどのようにして得るのか？」、「幸福の中身は？」の3点で把握することが求められています。

## I イエス・キリストの宣べ伝えた人間の本当の幸福とは何か（1節～12節）

イエス・キリストの有名な「山頂の垂訓」の最初のおことばは、「マカリオイ」というギリシャ語が用いられている。しかも、この語が2節から11節のそれぞれの節の冒頭に出て来るのです。日本語訳聖書では、「幸いです」、「幸いである」と訳出されている。

この語は、元々はヘブル語の「アシュレー」のギリシャ語訳とされており、その元々の意味は、「真っすぐに歩む、前進する」ことを意味している。そして、この語が人に適用されると「神様に定められている人としての真っすぐな歩み」となる。勿論、このような歩みこそ人の本分であり、神に祝福された幸いな歩みとなるのである。

このヘブル語の「アシュレー」は、旧約聖書では、数多く用いられているが、その中でも詩篇記者は、山頂の垂訓と同じような詩形式で、次のように語っている：

幸いなことよ。悪しき者のはかりごとによらず、罪人の道に立たず、嘲る者の座に着かない人。（詩篇1：1）

幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。（詩篇2：12）

更に詩篇32篇1，2節では：

幸いなことよ。その背きを赦され、罪をおおわれた人は。(1 節)

幸いなことよ。主が咎をお認めにならず、その霊に欺きがない人は。(2 節)

## II 人は本当の幸福をどのようにして得るのか(1～12 節)

イエス・キリストの山頂の垂訓は、開口一番、人間の真の幸福があることを、そして、それがどうすれば得られるのか、をはっきりと繰り返して説いている。

人は何をすれば幸福になれるのか、この人類共通の大課題について、キリストは、9つの人の有り様を教えている。すなわち、

①心の貧しい者になる(3 節)； ②悲しむ者になる(4 節)；

③柔和な者になる(5 節)； ④義に飢え渴く者になる(6 節)；

⑤あわれみ深い者になる(7 節)； ⑥心のきよい者になる(8 節)；

⑦平和をつくる者になる(9 節)；⑧義のために迫害されている者(10 節)；

⑨キリストのために、ののしり、迫害、悪口を受ける者(11 節) である。

⑧と⑨は、重なっているが、悔い改めて、これらが自分たちの生き様になるとき、人は神様から大いに祝福され、本当の幸福をいただくことができるのである。

しかし、私たちの救い主である神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき、神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちに救ってくださいました。神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。(テトスへの手紙 3 章 4－6 節)

上のみことばは、私たちが悔い改めることができる根拠が示されている。すなわち、神の御子、イエス・キリスト様が来てくださって贖いの業をなし、御子の働きをなさる聖霊が私たちに迫って悔い改めを促してくださるのである。

ここでも、人の真の幸福が9つの領域で説明されている。

御国をいただき；慰めを得；地を受け継ぎ；満ち足り；あわれみを受け；神を見；神と子供と呼ばれ；大きな報い； が与えられるのである。

## 結語

主の助けをいただき、昔の預言者と同じ信仰の王道を、私たちも共に歩もうではありませんか。その時、私たちは人として生かされている幸いを深い喜びをもって味わうことができると信じます。